

1 収 集

(1) 目 的

優れた美術品を「県立美術館作品収集方針」に基づいて体系的に収集し、美術品の量的、質的な充実を図る。

(2) 収集方針

- ・17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画の収集に努める。
- ・ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ・20世紀以降の美術の動向を示す作品の収集に努める。
- ・静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
- ・富士山をモチーフとした作品の収集に努める。

※作品保有状況 (令和7年3月31日現在) (単位：点)

作品保有状況	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
	369	298	59	121	1,421	348	96	10	92	131	2,948
主要収蔵作品	蘭亭曲水・龍山勝会図屏風（池大雅、重要文化財）、樹花鳥獣図屏風（伊藤若冲）、ラ・クロッシュ（佐伯祐三）、考える人、地獄の門（ロダン）、ルーアンのセーヌ川（モネ）、無題（No. White A.Z.）（草間彌生）等										
基金保有作品	家畜番の少女（ゴーギャン）、サン・トロペ、グリモアの古城（シニャック）、武蔵野図屏風（作者不詳）、蘭亭曲水図屏風（久隅守景）、石橋のある風景/水車のある風景（フランソワ・ブーシェ）、富士之図（黒田清輝）										

<令和6年度の取得状況>

【購入作品（計2件）】

No.	ジャンル	作者名	作品名	購入額(千円・税込)
1	日本画	狩野探信守政	雑画貼交屏風	550千円
2	油彩画	小山田二郎	狂女	550千円

【寄贈（作品90件・資料11件 計101件）】

松林桂月《松竹梅》ほか100件

うち61件は2023年に閉館したヴァンジ彫刻庭園美術館からの寄贈品。

【分類替え（資料1件）】

大西清澄《濤の塔マケット》

2 保 存

(1) 目 的

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品の修復、館内外の保存環境の維持等を図る。

(2) 実 績

年間を通して館内外の生物環境調査を行い、作品の保全に適した環境を維持している。また、クラウドファンディングにより調達した資金を活用して、「彫刻プロムナ

ド」に設置してある屋外彫刻作品2点の修復を行った。あわせて低木伐採等を行い、鑑賞環境を整備した。

作 家	作 品 名	修復等内容
トニー・スミス	アマリリス	再塗装
清水九兵衛	地簪	再塗装

3 展 示

(1) 目 的

収蔵品の理解促進や調査研究の成果を踏まえ、各種の美術展を企画・開催し、県民に国内外の優れた美術作品の鑑賞の機会を提供する。

(2) 令和6年度展覧会開催実績

(令和7年3月31日現在)

区分	展 覧 会 名	期 間	観覧者数 見 込	観覧者数 実 績
企 画 展	テオ・ヤンセン展	4/13～7/7 (75日間)	44,750	43,792
	カナレットとヴェネツィアの輝き	7/27～9/29 (57日間)	33,000	18,224
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館 —窪島誠一郎の眼	10/12～12/15 (56日間)	22,000	10,403
	生誕140周年記念 石崎光瑤	1/25～3/23 (50日間)	10,000	18,117
収 蔵 品 展(内訳は以下のとおり)		4/1～3/31 (288日間)	12,500	10,713
ロダン館開館30周年記念展		内10/9～12/15(内59日間)		3,096
観 覧 者 数 合 計			122,250	104,345
移動美術展	「リレーション 奥中章人／堀 園実 二人展」(島田市金谷生 きがいセンター夢づくり会館)	9/14～9/29 (14日間)	2,000	2,157

※収蔵品展

企画展と関連づけた展示によりコレクションの新たな魅力を発信した。また、ロダン館開館30周年を記念した小企画展を開催した。

展覧会名	会期
新収蔵品展	4/10～7/7
カナレットとヴェネツィアの輝き展関連展示 ピラネージとローマの景観	7/18～10/6
ロダン館開館30周年記念 《地獄の門》ができるまで：素描、試作から完成へ	10/9～12/15
石崎光瑤展関連展示 第1部 異国への眼差し 第2部 絢爛たる花鳥画	第1部 1/4～2/16 第2部 2/18～4/6

◎企画展、収蔵品展の観覧者数内訳は資料2を参照

4 教育普及

(1) 目的

県民の創作意欲に応える実技系事業及び学校と連携した教育普及プログラムを実施するとともに、展覧会に関連した各種普及事業を開催する。

(2) 実績

企画展にちなんだ屋外イベントの開催やロダン館でのヨガ体験、視覚障害者と晴眼者による鑑賞会など、新たな取り組みを実施した。講座系では、企画展毎に館長による美術講座を開催したほか、様々な分野の専門家を招へいた講演会等、幅広い事業を開催した。

結果として、見込み数 11,985 人を大きく上回る 17,822 人の参加があった。

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

事業計画		事業実績
教育普及プログラム参加者総数 (実技・体験＋講座・講義＋学校連携)		17,822 人 ・プログラム数 28 本
実技 ・体験	県民の創作意欲に応える実技系事業、展覧会関連普及事業等の開催（創作週間、実技講座、ねんど開放日、コンサート等）	9,434 人 ・プログラム数 12 本
講座 ・講義	特別講演会、館長美術講座、フロアレクチャー等の開催	2,466 人 ・プログラム数 5 本
学校連携	美術館教室等の開催（出張美術講座、ねんど・えのぐ教室、粘土貸出、教員研修等）	5,922 人 ・プログラム数 11 本

5 調査研究

(1) 目的

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤であり、学芸員の調査研究をより一層充実させ、その成果を広く発表するとともに、調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を図る。

(2) 実績

ア 学芸課研究会の実施

毎月 1 回のペースで学芸課職員による研究会を実施している。発表時間約 40 分の後、質疑応答約 20 分。研究会のテーマは自由に設定し、発表後は館長及び課員との質疑応答を行うことで、研究成果を共有し、有益な示唆を得る機会となっている。

- ①開館 40 周年に向けて（5 月 木下直之）
- ②石崎光瑤と若沖（6 月 石上充代）
- ③中村宏の「観光絵画」について（7 月 川谷承子）
- ④狩野探幽筆「一ノ谷・二度之懸図屏風」に関する一考察（9 月 薄田大輔）
- ⑤村松似弘《伊豆沿海真景》について（9 月 浦澤倫太郎）
- ⑥草土社以後の風景画に描かれたトポスについて
ー中川一政の《風景（池袋の麦畑）》を手がかりに（10 月 貴家映子）
- ⑦杉山邦彦の「死亡届事件」について（11 月 植松篤）
- ⑧ヴェドゥータについて（12 月 新田建史）
- ⑨川村清雄と額縁（1 月 喜多孝臣）
- ⑩教育普及が目指すもの～令和 6 年度教育普及事業の振り返りと今後に向けて～（2 月 山本勇実）

- ⑪ミケーレ・マリエスキとフランチェスコ・アルボットーマリエットの評伝について（3月 南美幸）

イ 美術館研究紀要の発行

第40号を発行し、3本の論文を収録した。

- ・南美幸「静岡県立美術館『彫刻を触って鑑賞するプログラム』について」
- ・川谷承子「中村宏の作品における映画の技法とマンガ的要素が鑑賞に与える効果について」
- ・植松篤「杉山邦彦《死亡届》事件について」

ウ 博物館実習の受入れ

8月5日（月）から9日（金）までの5日間、10大学11名の学生を受け入れた。

エ 書庫・図書室の運営

限られた図書購入予算の中、優先順位をつけて図書を購入した。

- ・刊行図書 7冊、美術雑誌 193冊

図書閲覧室は図書ボランティア（53名）の協力により、233日間開室した。

図書関連のデジタルアーカイブに関しては、新たに受け入れた図書については速やかに登録・公開を行い、順調にデータ数を増やしている。

6 広 報

(1) 目 的

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、Webサイトの充実、マスメディア、SNSを活用した情報発信を進めるとともに、地域との連携を積極的に図る。

(2) 実 績

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進し、さらに企画展の共催者・協賛者等と協働による広域的な広報を行った。

ア 情報発信機能の強化

- (ア) ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）による情報発信と、訪問者の情報解析等
- (イ) 展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- (ウ) 各展覧会の客層を考慮したポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- (エ) 県広聴広報課との連携（県民だより・県公式アカウントによるX（旧ツイッター）、ラジオ、静岡駅地下街ショウケース電照看板、包括連携協定による広報物掲示・配架）、P R T I M E Sを利用した国内メディア向けオンライン・プレスリリースの配信
- (オ) ボランティア・広報サポーターへの情報提供
- (カ) 展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- (キ) 企画展に関連する講演会・イベントを館内外で行い集客を図った
- (ク) 美術館ニュース「アマリリス」の発行
- (ケ) インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトでの情報発信
- (コ) 静岡県立美術館デジタルアーカイブの充実
 - ・910冊の書誌情報を新たに公開した。

- ・作品作家情報の精度向上を図った。
- (サ) ロダンウィークによる集客・啓発
 - ・平成 26 年度にロダン館開館 20 周年を契機として立ち上げたロダンウィークを令和 6 年 11 月 1 日(金)～11 月 4 日(月)に開催した。
 - ・「ロダン賞コンサート」や草薙マルシェ実行委員会との協働による「丘の上のロダンマルシェ」などを実施し、ロダン館への誘客を図った。
 - ・イベント全体で、約 6,000 人の集客実績があった。

イ 教育機関との連携

(ア) 職員による教育支援等の講義

- ・静岡大学出講
「〈現代〉の芸術—文学・演劇・美術」(7月8日、22日、29日)
- ・静岡県立大学出講
「国際関係学部特別講座 モネ、ホイッスラー、シニャックの描くヴェネツィア」(7月5日)
- ・美術による学び研究会 2024 静岡大会
「対話型鑑賞 特別展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」」(11月4日)

(イ) 県内 3 大学の学生への広報

年間 4 本の企画展について、美術館周辺大学の学生に向けたメールでの広報を実施。

(ウ) 各学校の美術館利用促進

年度末に、県内小・中・高・特別支援学校へ年間スケジュール・美術館教室のしおり等を配付した。

ウ 地域等との連携

(ア) 県立美術館ボランティア

- ・令和 5 年度から任期を 1 年として更新可能とすると同時に、年齢を 20 歳から 18 歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。選考と研修を行い、131 名の方をボランティアとして登録した。
- ・活動期間(任期)：令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日(更新可能)
- ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(イ) 県立美術館友の会

友の会は、県立美術館の活動を後援することによって、芸術文化の向上を図ることを目的とする親睦団体である。友の会会員向けの館長講座、学芸員によるレクチャー、研修旅行などの行事を開催した。また、会員が編集した友の会だより「プロムナード」を年 2 回(4月、10月)発行した。

(ウ) ムセイオン静岡

- ・谷田地域の文化教育 7 機関(県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム)が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指す。
- ・ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」(令和 6 年 10 月 15 日(火)から 11 月 4 日(月)まで実施)においてスタンプラリーを実施し、周知を図った。

(エ) 草薙商店会等

- ・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダンウィークに「丘の上のロダンマルシェ」を開催した。(11月3日(日・祝))
- ・商店会、自治会、大学、小中学校、文化施設、金融機関、鉄道会社、市役所等で構成される草薙・有度地区の将来のまちづくりを検討する「草薙駅周辺

まちづくり検討会議」へ参加した。

- ・草薙商店会の協力を得て、地元食材を活用したガストロメニューの提供と回遊性を高めるための景品と交換できるスタンプラリーを実施した。(2月10日(月)～3月9日(日))

エ 新たな取組み

- (ア) 文化政策課と連携し、欧米向けと東アジア向けの美術館紹介動画を作成、公開した。
- (イ) 旺盛なインバウンド需要を取り込むため、ランドオペレーター向けファムトリップ、中国教育旅行ファムトリップを受け入れ、旅行商品の素材としての魅力をPRした。
- (ウ) 包括連携協定を活用し、静岡ブルーレヴズ試合会場、イオンモール浜松市野、イオンモール富士宮、アピタ静岡店で企画展の広報ブースを出展した。

7 環境・施設整備

(1) 目的

来館者の快適で安心安全な鑑賞環境や、収蔵品の適切な保存環境を確保するため、施設・園地の適切な維持管理を図る。

(2) 実績

- ・ロダン館非常用発電設備を更新した。
- ・本館講堂舞台音響設備及び照明設備を更新した。
- ・館内レストランにおいて、企画展ごとに県産品を使用した特別メニューを開発して提供した。
- ・企画展において、協賛企業を募り、コンサート、講演会、コーポレーションデー(企業協賛による無料観覧日)等を開催した。
- ・ミュージアムショップ運営事業者との連携により、新たに当館オリジナルグッズを開発・販売した。

8 運営

(1) 目的

県立美術館の使命をより円滑かつ効率的に行うため、運営基盤の強化を図る。

(2) 実績

ア 運営基盤の拡充(収入の確保)

- ・屋外彫刻の修繕と彫刻プロムナードの環境整備を図るため、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した「次世代へつなぐ！アートとみどりの散歩道 再生プロジェクト」クラウドファンディングを実施し、トニースミス《アマリリス》と清水九兵衛《地簪》の修復と、作品周辺の植栽の伐採やベンチの整備などを行った。

目標額 10,000 千円

実績 寄附者 190 人、10,609,000 円

- ・「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展において、協賛企業4社から寄附金をいただき、展覧会及び関連イベントの充実を図ることができた。
- ・ふるさと納税制度及び地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を活用し、館蔵品の取得のための財源確保を図った。

イ 企業との連携強化による運営の充実

(ア) 静岡県経営者協会との連携

- ・静岡県経営者に県立美術館の活動を理解していただくため、令和6年度の美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。

(イ) 遺贈に関する協定の締結による連携

- ・将来的な運営基盤の強化を図るため、株式会社三井住友信託銀行静岡支店と遺贈に関する協定を締結した。